

# 和歌山県の気象条件に適したトルコギキョウの ロゼット化回避育苗技術

## 1. はじめに

本県のトルコギキョウ栽培は8～9月に定植し、年内と春以降に2回収穫する作型が中心ですが、育苗期にあたる7～8月の高温で春まで開花しないロゼット株が発生する場合があります。種子冷蔵(10℃)処理と夜間冷房育苗(18:00-6:00まで15℃冷房)を組み合わせることでロゼット化を回避できるとされていますが、和歌山県では、同条件で育苗してもロゼット株が発生しました。そこで、本県の気象条件に適したロゼット化しない苗を自家育苗する技術の確立に取り組みました。

## 2. 試験方法

試験は図1に示す7品種を用い平成29年～令和元年に行いました。育苗は種子冷蔵と夜間冷房育苗を組み合わせ、406穴ペーパーポット(縦2cm×横2cm×深さ5cm、日本甜菜糖SM-2406(5H))を使用しました。培土はメトロミックス350(株)ハイポネックスジャパン)を用いて播種後灌水を行い、育苗トレイ全体をビニルで包み10℃暗黒下の冷蔵庫内で5週間種子冷蔵を行いました。種子冷蔵後、日中はなりゆき気温で管理し、17:30から朝7:00まで夜間冷房を行いました(育苗期間:H29、30 5週間、R1 5、6週間。冷房温度:H29 15℃、H30 18℃、22℃、R1 18、20℃)。育苗中の灌水は7:30から18:00まで頭上ミストを30分毎に60秒散布しました。

## 3. 試験結果

トルコギキョウでは、多くの品種で種子冷蔵処理だけではロゼット株が発生しました。種子冷蔵と夜間冷房15℃ではロゼット株は発生しましたが、18℃と20℃では全ての品種でロゼット株は発生しませんでした。しかし、夜間冷房23℃ではロゼット株が発生しました。種子冷蔵と夜間冷房温度18℃と20℃で5週間と6週間の育苗では、全ての試験でロゼット株は発生しませんでした(図1)。

## 4. まとめ

以上のことから、本県では、種子冷蔵5週間と夜間冷房18～20℃で6週間育苗を組み合わせることで、ロゼット化しない苗を安定して育苗できることがわかりました。今回紹介した育苗方法の詳細は、[https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/003/danchiengcenter/seika\\_d/fl/torukogikyoyou\\_ikubyoyou.pdf](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/003/danchiengcenter/seika_d/fl/torukogikyoyou_ikubyoyou.pdf)に掲載しています。(園芸部 花田 裕美)

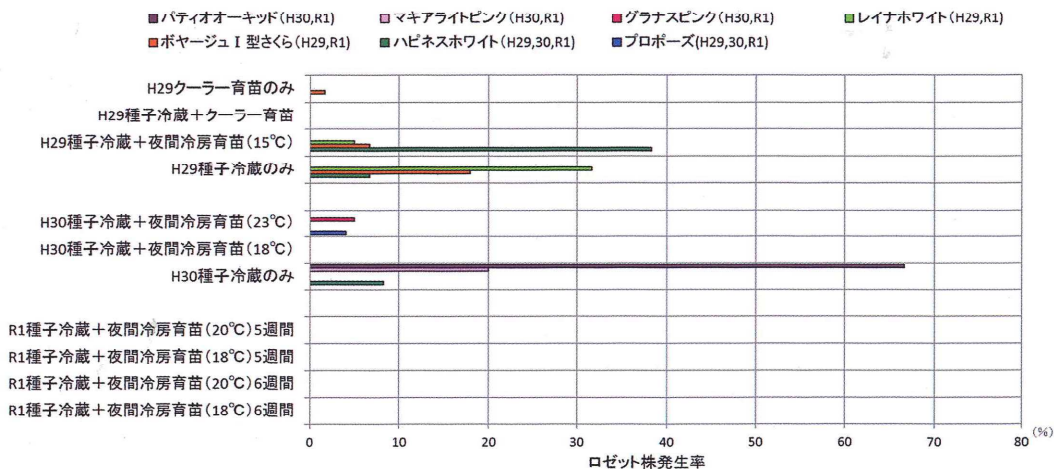


図1 トルコギキョウのロゼット株発生率に及ぼす育苗条件の影響

(定植日 H29 8月10日、H30 8月23日、R1 8月7日 試供品種: 凡例に供試年度を記載)

※クーラー育苗: 5:00-6:00 20℃、6:00-19:00 25℃、19:00-20:00 20℃、20:00-5:00 15℃